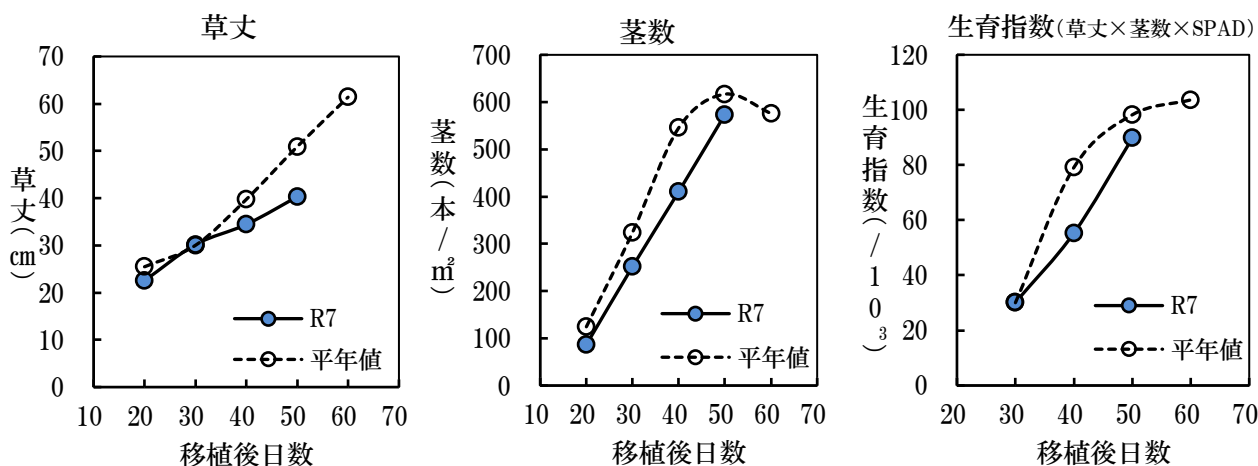


令和7年産米品質改善技術情報 第1報

7年産の生育状況と今後の予測



水稻作況結果調査

注1)場所は農業研究所圃場(松阪市嬉野川北町)、注2)品種はコシヒカリ

注3)移植日は4月24日、注4)平年値はH27～R6の平均値

4月下旬～5月上旬がやや低温であり、全期間で日照が少なかったことから、現在の生育状況は平年よりやや小さくなっています。農業研究所作況圃場の生育調査結果は以下のとおりです。

株丈は短い(平年比▲11cm) 茎数はやや少ない(平年比93%) 生育指数は小さい(平年比80%)

表1 予想される出穂期

移植日	松阪		伊賀	
	コシヒカリ	みえのゆめ	コシヒカリ	みえのゆめ
4月10日	7/7(-6)	-	-	-
4月20日	7/12(-5)	-	7/15(-7)	-
4月30日	7/17(-4)	-	7/19(-6)	-
5月10日	7/22(-5)	8/1(-5)	7/23(-6)	8/4(-4)
5月20日	7/28(-4)	8/6(-3)	7/29(-5)	8/9(-4)
5月30日	-	8/12(-3)	-	8/16(-4)

注1)メッシュ農業気象・水稻生育予測システムver2.0による予測値。

注2)予測場所は松阪が農業研究所(松阪市嬉野)、伊賀が伊賀農業研究室(伊賀市森寺)。注3)予測日:6月25日。注4)カッコ内は過去10年間の平均値との比較。

5月中旬～6月中旬が高温であったことから、出穂期はコシヒカリが平年より4～7日早く、みえのゆめが平年より3～5日早い見込みです。

出穂期が早いと予想されるため、病害虫防除も早めに実施できるよう計画を立てましょう。

今後の重点対策

斑点米カメムシ類の対策を！

近年、斑点米カメムシ類の発生が増加傾向であることから、今年も本虫が広く発生することが予想されます。特に、近年イネカメムシの発生を確認している地域では、ほ場での発生に注意し、適期防除を実施しましょう。

イネカメムシやクモヘリカメムシによる吸汁は不稔を発生させるため、発生地域では出穂直後に薬剤を散布してください。その他の斑点米カメムシ類の薬剤散布は穂揃い期に行い、多発時にはその10日後にも行ってください。薬剤抵抗性発達の回避のため、IRAC コードが異なる殺虫剤のローテーション使用をしてください。

また、出穂前10日までに、畦畔の草刈りを行うなど、周辺の雑草地の管理を徹底しましょう。

【主な斑点カメムシ】



ミナミアオカメムシ



クモヘリカメムシ



イネカメムシ



成虫

アカスジカメムシ



幼虫



成虫

アカヒゲホシドリカメムシ



幼虫

いもち病発生対策を！

梅雨時期は、いもち病の発生に好適な条件となります。ほ場を見回り、**早期発見、早期防除**をしてください。下記の三重県病害虫防除所 Web サイトも参考にしてください。

いもち病発生予測システム(プラスタム) (<https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39584007416.htm>) (三重県病害虫防除所)

品質向上に向けた対策を！

～籾数過多や根の活力低下は乳白米や屑米発生の原因となります～

◎中干し以降の**水管理は間断灌水**としましょう。

◎土壌中の**ケイ酸**が不足している圃場は、適宜、**ケイ酸質資材を施用**しましょう。

◎出穂後、高温が予想されるときは、**穂揃い期にチッソを1kg/10a 施用**することも有効です。